

「福岡アジア美術館」事例報告の概要

福岡アジア美術館は、アジアの近現代美術を専門に紹介する世界で唯一の美術館として 1999 年に開館し、今年で 15 周年を迎える。美術館では、アジアのアーティストや研究者が長期間滞在し作品制作や研究をおこなう中で様々な市民交流を展開する交流事業をおこなっており、「アジアのアートとライブに出会える交流型の美術館」を目指している。

ボランティア事業も開館時からおこなっており、現在 200 人を超えるメンバーが活動している。

活動は、8 つのグループ（「案内・解説」「読み聞かせ」「学芸資料」「図書資料」「展覧会情報」「広報」「交流」「活動支援」）があり、メンバーは複数のグループに所属することができる。任期制ではないため定期募集はせず、人数が少なくなった時点で随時募集をおこなっている。これまでに 2 度追加募集をし、組織改編などもおこなってきた。

活動の特徴としては、当館ならではの交流事業をサポートする「交流ボランティア」を全員で担当していること、ボランティア同士の横のつながりを構築するための「活動支援ボランティア」を設けていることなどがある。今回は、それらの特徴的な活動を中心に、現状と課題をまじえながら報告する。